



ミケランジェロ(1475~1564)作
システーナ大聖堂の天井画の
一部「天地創造」



フランツ・ヨーゼフ・ハイdn
(1732~1809)

岐阜バッハ合唱団演奏会

J.ハイdn : オラトリオ「天地創造」

指揮：植松 峻

東京学芸大学、東京芸術大学卒業。ウィーン国立音楽大学留学。1976年に岐阜バッハ合唱団を設立。現在、椋山女学園大学教授。岐阜市在住。



独唱：



ガブリエル、エヴァ
浅香真理子 (ソプラノ)
東京音大卒業、同大学院修了。インディアナ大留学。貞静学園短期大学講師。東京都在住。



ウリエル
北村敏則 (テノール)
京都市芸大卒業、同大学院修了。ウィーン留学。京都市芸大講師。京都市在住。



ラファエル、アダム
林 剛一 (バリトン)
東京芸大卒業、同大学院修了。愛知教育大教授、名古屋音大非常勤講師。名古屋市在住。

ハイdnのオラトリオ「天地創造」とは

オラトリオ「天地創造」は、ヘンデルの「メサイア」、メンデルスゾーン「エリヤ」と並んで3大オラトリオの1つとされている。旧約聖書の創世記と、ミルトンの失楽園の物語をもとに構成した台本に、1795年から約3年をかけて、演奏に2時間半を要するオラトリオ「天地創造」を作曲した。

歌詞は、3部からなり、第1部と第2部では3人の天使、ガブリエル(ソプラノ)、ウリエル(テノール)とラファエル(バス)を中心に6日間にわたる神の天地創造の過程が、第3部では楽園にあるアダムとエヴァの愛が題材。第1部と第2部では3人の天使が天地創造の様を語りすすめてゆく。第3部では、アダム(バス)とエヴァ(ソプラノ)が神のみ業をたたえ、天使ウリエルが2人を祝福する内容になっている。

1798年にウィーンの宮廷劇場で初演、大成功を取めた。「天地創造」の大ヒットは空前絶後のものだった。この曲の冒頭部の、神が混沌の中から天地を創造する有様を描く雄大な序曲の後、「初めに神は天地を創造された……」と歌い出すバスの荘重な叙唱に続いて、合唱が最弱音で「神が『光あれ!』といわれ」と歌い始め、「光があった!」と最強音に変わる劇的な展開は、このオラトリオの最も印象的な部分。ついで、創世記にしたがって、神が天と地を造り、日と月と星々を創造する有様を描き、詩編19編「天は神の栄光を語り……」の大合唱で第1部を終る。動物と人の創造を歌う第2部を経て、第3部では、アダムとエヴァの楽園での楽しい生活を歌い、天使と共に創造の神を賛美する終曲合唱「全ての声よ、主に向かって歌え!」で全曲を閉じる。



昨年の演奏会(バッハのマタイ受難曲)

合唱：岐阜バッハ合唱団

東京芸術大学の「バッハカンタークラブ」を創設し、その学生指揮者として活動した植松峻が、ウィーン留学後の1976年に岐阜の地に「岐阜バッハ合唱団」を15人のメンバーで設立。

カンタータ「4番」と「12番」で第1回の演奏会を成功させ、その後「ヨハネ受難曲」、「ミサ曲短調」、「マタイ受難曲」と次々に大曲を取り上げ、オーケストラ付きの合唱曲の荘厳さを聴衆に与え続けている。

バッハの作品のほかにも、モーツァルトの「レクイエム」、「戴冠式ミサ」、「ヴェスペレ」、ハイdnの「天地創造」、「パウケンミサ」、「ネルソンミサ」、シューベルトの「ミサ曲短調」などを取り上げている。

岐阜バッハ合唱団は、バッハの合唱曲(オーケストラ付)を演奏する合唱団としては中部地方最古の歴史を持つ。

管弦楽：名古屋バッハ合奏団

岐阜バッハ合唱団演奏会のために全国から一流奏者を集めて結成されるシーズンオーケストラ。今年もコンサートマスターは釋 伸司さんで38名のオーケストラ。

2009.12/5 [±] 18:30 開演 サラマンカホール 入場料=3,500円(当日共・全自由席)